

須坂には歴史的建築と共に魅力的な面白いみちたちが残っているが、車社会の台頭で歩くことに寛容では無くなってきている。

本設計ではかつて製糸業で栄えた歴史を支え街を自由に駆ける裏川用水などの道の姿に、遊び心で道を開拓する子供達の姿を重ね、多様な道の記憶と共に須坂の歴史を継承する子供達の居場所、過去と未来のあいだ、中今の存在としての旧越家住宅の再編を試みる。

既存アプローチの観察と気付きを与える再定義を行う事で、訪れる人々が街の魅力や歴史にまで視野を広げ経験するきっかけとなる。

既存アプローチに加えて新たな住民の生活が垣間見えるアプローチを新設。これにより敷地内を東西南北に道が貫く。

再定義により奥座敷の揚屋を行い、下に生まれたピロティは、空間の履歴を尊重して来客用玄関として再編。

ここは水路跡の可視化と共に、寺子屋と歴史ギャラリー、南北庭園と様々な場が交差する来客空間を創出。

2階では奥座敷が居間へと価値転換され、縁側は壁を間引いてベランダにしたり現代的な生活との融合を図った。

過去と未来の存在を繋ぎ止め、今感じる魅力を面白がって現代へと再生する。

中今の道を往く、これが私の民家再生への回答である。